

【添付資料 2】地質調査結果

平成 18 年に実施した地質調査結果での「地質データ採取位置及び推定断面」を図 1 に、「地質データ(ボーリング柱状図)」を図 2 から図 4 に示す。地質調査では事業予定地の地層構成を次のように示している。

1 表層

埋土及び粘性土であり、深度 2～2.3m まで分布している。粘性土の N 値は 4～7 であり、著しく軟弱な層ではない。

2 上層部

深度 8.5m ないしは 9.7m までの地盤で主に砂礫から構成されている。N 値は 10～20 程度を示すところが多い。まれに薄い砂層を挟む。

3 中間層

深度 22.7m ないしは 25.0m までの地盤で、主に砂礫から構成される。まれに薄い砂層を挟み、No. 1 孔(図 2)の深度 20.0～25.0m に礫混じり砂が厚く分布する。N 値は 20～30 程度を示すところが多い。No. 2 孔(図 3)、No. 3 孔(図)は全般に N 値が大きく、N 値 50 以上の部分も頻繁に見られるが、No. 1 孔は N 値 20 前後のところを占める。

4 下部層

深度 22.7 ないしは 25.0m 以深の地盤で、主に砂礫から構成される。局部的にごく薄い粘性土を挟む。N 値は 30 以上を示し、N 値 50 以上を示すところが多い。

5 地下水位

地下水位は深度 3.5～3.9m 付近の浅い深度にあり、No. 1 孔から No. 3 孔の 3 地点の水位面は地表面とほぼ平行で、部分的に地下水位が高いところや低いところはみられない。掘削深度が深くなっても孔内水位は、ほとんど変化することがなく一定である。

このことから、調査深度内に被圧水はなく、調査時の水位が自由地下水位面を示し、砂礫層は連続性の良い単一の帯水層となっていると判断される。

ボーリング柱状図

調査名 平成18年度 Aごみ焼却施設地質調査業務委託
事業・工事名

ボーリングNo.	
----------	--

ボーリング名	No. 1	調査位置	長野市 松岡2丁目	北緯	36° 37' 22"
発注機関	長野広域連合		調査期間	平成 18年 11月 22日 ~ 18年 12月 9日	
調査業者名	主 任 者	現 場 代 理 人	コ ー ア 監 定 者	ボーリング責任者	
孔口標高	345.18m	角 度	90°	試 験 機	YSO-1
総掘進長	30.00m	方 向	270°	使用機種	NFD9
		地盤勾配	水平0	ポンプ	ハンマー落下用 半自動型
				エンジン	V5-P

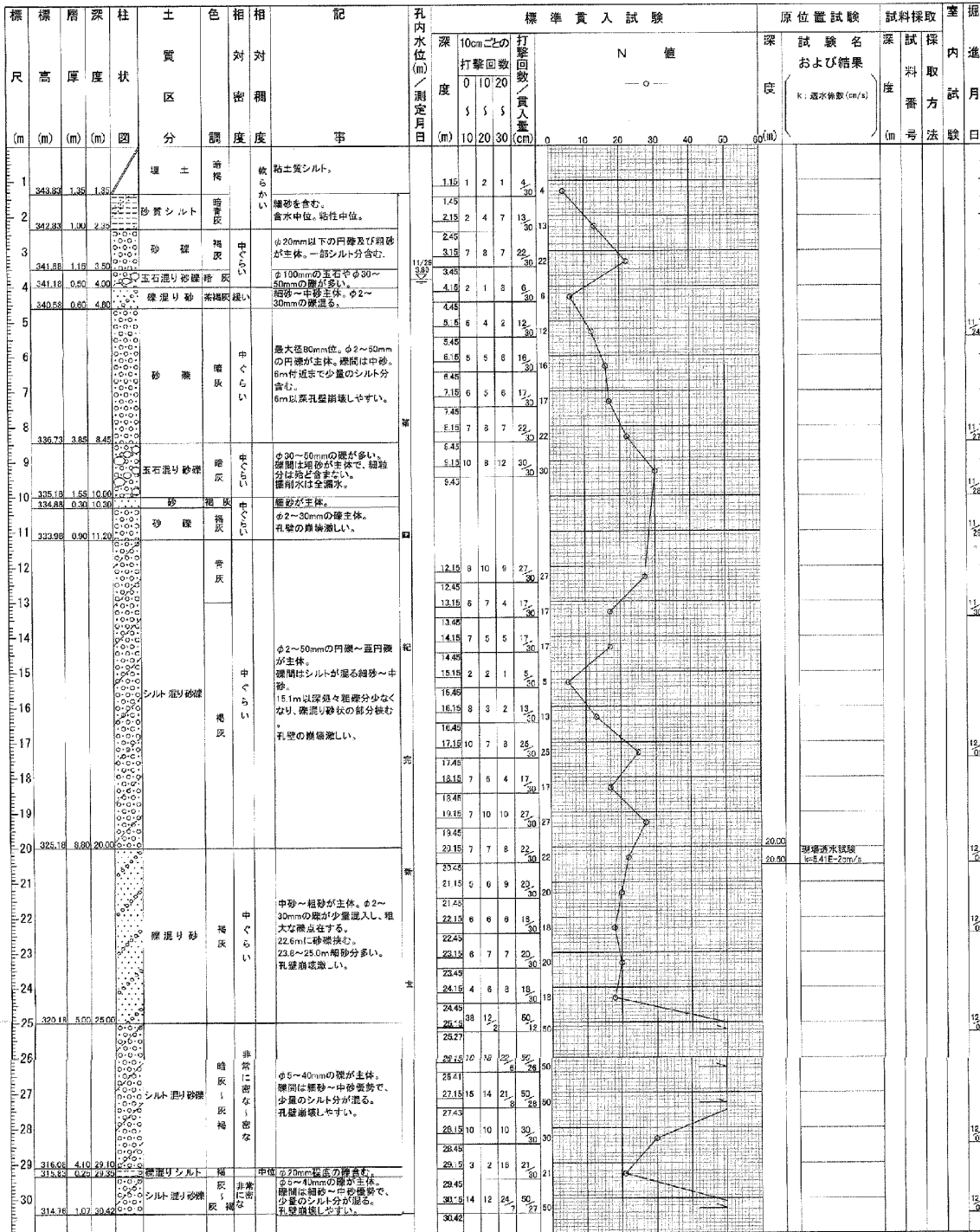


図 2 地質データ (No.1 孔)

ボーリング柱状図

調査名 平成18年度 Aごみ焼却施設地質調査業務委託
事業・工事名

ボーリング№

シート№

ボーリング名	No. 2	調査位置	長野市 松岡2丁目	北緯	36° 37' 21"
発注機関	長野広域連合	調査期間	平成 18年 12月 6日 ~ 18年 12月 15日	東経	138° 13' 11"
調査業者名	主 任 者	現 場 代 理 人	コ ア 監 定 者	ボーリング責任者	
孔口標高	345.96m	角 度	180° 90° 0° 90°	方 向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°
総掘進長	30.00m	地盤勾配	水平 0°	使用機種	ハンマー落下用機
				エンジン	NFD13
					ポンプ
					半自動型
					BG3C

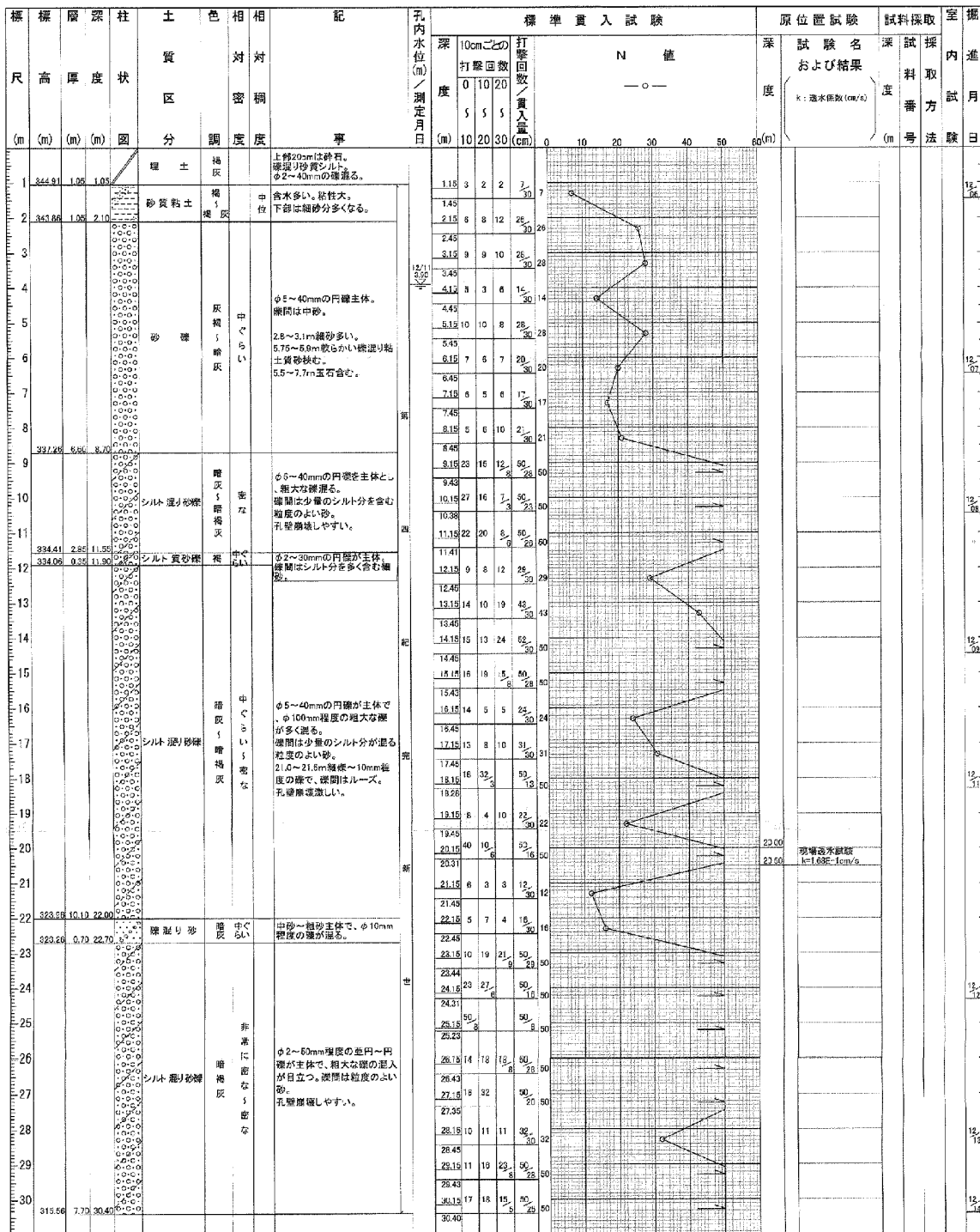


図 3 地質データ (No.2 孔)

ボーリング柱状図

調査名 平成18年度 Aごみ焼却施設地質調査業務委託
 事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No. 3	調査位置	長野市 松岡2丁目			北緯	36° 37' 21"		
発注機関	長野広域連合			調査期間	平成 18年 11月 29日 ~ 18年 12月 15日			東経	138° 13' 09"
調査業者名	主 任 者 技 術 者			現代人	コ ア		ボーリング責任者		
孔口標高	345.87m	角	180° 上 90° 下 0°	方 向	270° 西 0° 北 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平0°	使用機種	KR-100
総掘進長	30.00m	度	90°	向	180°	地盤勾配	水平0°	エンジン	NFD13
								ハンマー 落下用具	半自動型
								ポンプ	BG3C

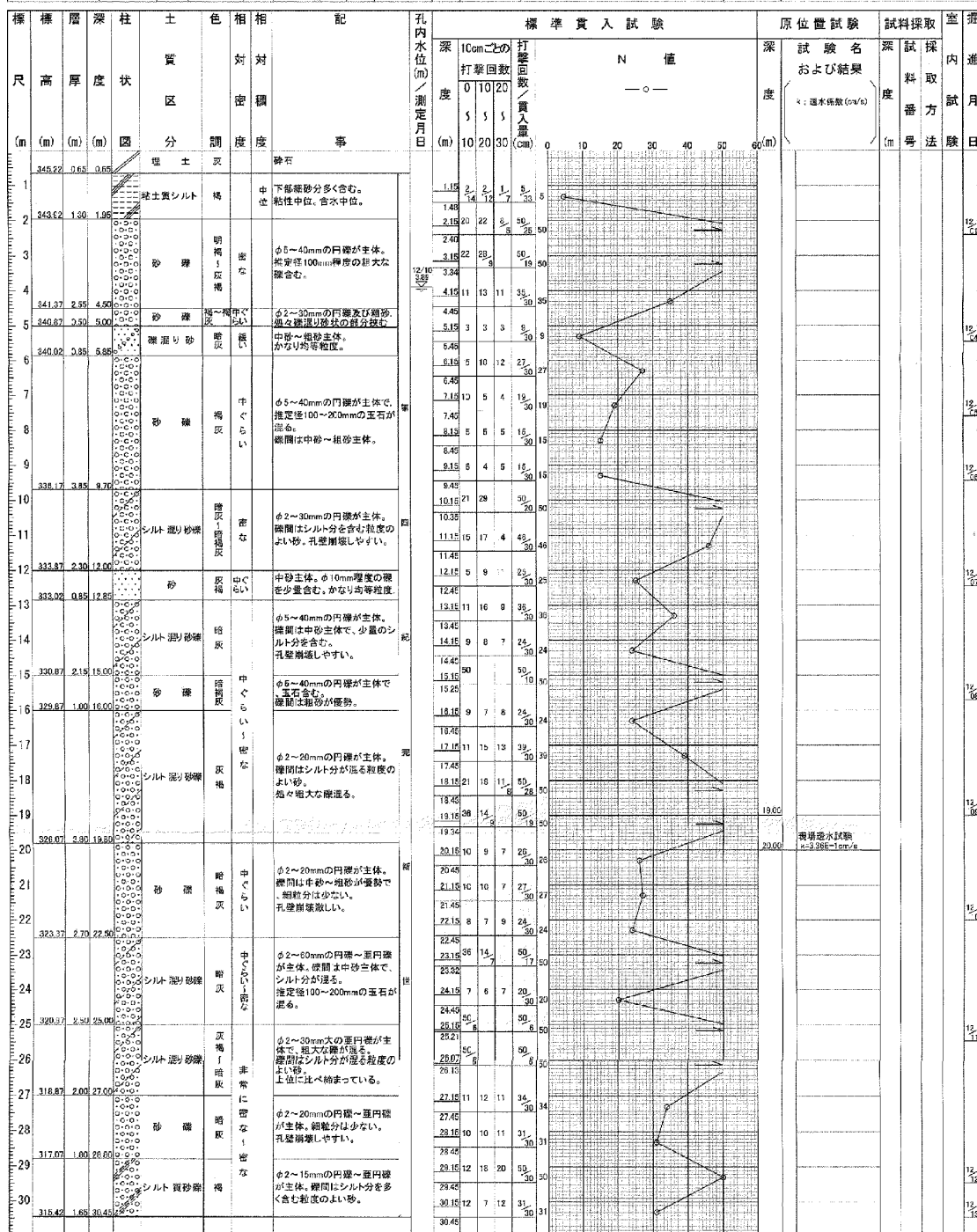


図 4 地質データ (No.3 孔)